

財団だより

第137号

2013.3

事業年報特集号

多摩川



Photo & Text 遠藤顕彦 (Hidehiko Endo) 渋谷区在住

■ 浅川平山橋付近 ■

今回は多摩川から離れて多摩川へ合流する川を取り材して見ようと、多摩川50景に登録されている浅川の平山橋付近に目的を定め出発。最初の目的の程久保川ワンド（静水域）に出るため百草園で下車、徒歩10分位でワンドへ。多摩川・浅川・程久保川の合流点に作られたワンドは、合流点に魚や植物が生息しやすいように形成され、市民グループが日野市に働きかけて整備されたもので、今ではフナやコイ、ドジョウなど10種類以上の魚が泳ぎまわっています。平山橋下流の土手もコンクリート護岸の升目で沢山の緑に覆われているのですが、季節がらと工事中とかで同じ事が出来ませんでしたが・・・

(平山城址公園駅から徒歩20分位)

Contents 目次

■ 卷頭言	2
■ 特別寄稿	3
■ 多摩川に学ぶ	4
■ 私と多摩川	5
■ 多摩川散歩	6
■ 歴史・多摩川	7
■ たまがわスケッチ散歩	8
■ 環境TOPICS	10
■ インフォメ／多摩川	11
■ 財団事業年報特集	
● 事業日誌	19
● 研究助成事業	21
● 第4回社会貢献学術賞	31

多摩川に学ぶ

檜原村で2つの森づくり



NPO法人フジの森
理事・事務局長

相澤 美沙子

●多摩川の支流 秋川の源流の村

私たちが森づくりを進めているフィールドは、東京の檜原（ひのはら）村にあります。檜原村は、東京の西南に位置する山村で、周囲を急峻な山嶺に囲まれ、面積の93%が林野です。村の中央を浅間（せんげん）尾根が東西に走り、両側を南秋川と北秋川が流れ、東部で合流し、多摩川の支流、秋川となります。

●NPO法人フジの森

檜原村の南側の教育の森（村有林）内に、NPO法人フジの森の所有する「フジの森（宿泊棟）」があります。「フジの森」は、木造2階建てのロッジ（約90坪）で、公益信託富士フィルム・グリーンファンドの助成で1990年に建設しました。管理運営は檜原村の村おこしグループ「冬雷塾（とうらいじゅく）」が行ってきました。

「フジの森」を拠点に都市と山村の交流、森づくりをさらに進めるために、2005年「冬雷塾」と村内外の会員によりNPO法人フジの森を設立しました。2008年からは村の指定管理者として、約25,000m²の教育の森と研修棟（約50坪）を運営し、「フジの森」と連携を図っています。



教育の森入口

●教育の森——針葉樹の人工林

教育の森は、ほとんどがスギとヒノキで40年～60年生の人工林です。ここでは、森づくりや山村の生活体験、林業の仕組みへの理解、森の癒し体験、そして環境資源として森や水の重要性を実感できるプログラムを提案しています。

森づくりの中心は、間伐です。6年間間伐を続け、明るい森となりました。以前に比べ、蝶やトンボなどが増え、野鳥の声が聞こえ、そして野生動物が頻繁に現れるようになりました。

また間伐材は、材として使用できるものは製材し、ログハウス（2棟）を建て、端材や小径木はすべてマキとして、ストーブやピザ窯で燃やしています。

マキを燃やして、ピザ、パン焼き、飯ごう炊さん、餅つきなど、森の中での料理が人気です。



薪割り



薪で焼いたピザ

●ふるさとの森——広葉樹の天然林

ふるさとの森は、檜原村の東部（本宿地区）に位置する面積約35ヘクタール（350,000m²）の村有林で、木造約24坪の管理棟があります。一部がスギ・ヒノキの人工林ですが、大半は広葉樹林（碎石跡地を含む）です。1961年からアサノセメントが石灰石を採掘、1978年に閉山、村有林になりました。

かつては地域住民により、薪炭林や畑、カヤト、竹林などに利用されてきたものの、採石場となり、その後35年近く放置されて荒廃した森になっています。

2012年7月にNPO法人フジの森が「ふるさとの森」指定管理者として選定されました。この日の当らない暗い森に適切に手を入れる活動で、村の原風景であるゾウヤマ（薪炭林）を蘇らせようと考えています。

まず、常緑の細い木から整理し始めましたので、作業がしやすく初心者、経験者を問わず、山がきれいになったと達成感があります。また、伐採した木を炭・焚き木・ホダ木・木工など利用するプログラムも提案しています。



ふるさとの森の枝切り



雪の中の間伐

※ 特定非営利活動法人フジの森のホームページをご覧ください。

URL:<http://www.fujinomori.net/>